

北陸地域の概要 (2026年6月調査)

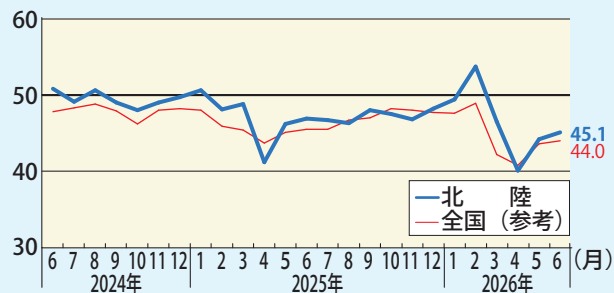
調査研究部 主任研究員

田中 秀和

1. 景気の現状判断

中東情勢の影響は収まりつつあるが、
値上げや金利上昇に懸念の声

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

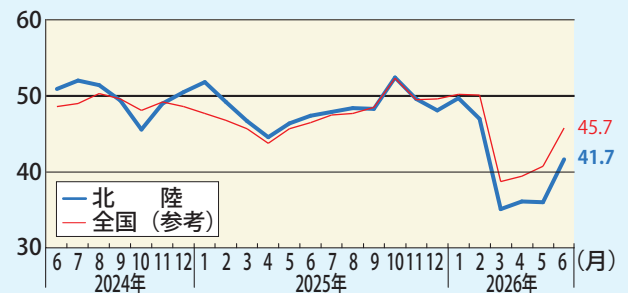


現状判断指数(DI)は前月から0.9ポイント上昇の45.1となった。「インバウンドの観光需要が非常に旺盛で、売上が大幅に増加している(商店街)」、「企業研修や学会などの団体予約が好調で、前年の稼働率を上回っている(都市型ホテル)」と観光や宿泊関連で明るい声が聞かれたほか、「ナフサ不足の最悪な状況は脱したとみている(プラスチック製品製造業)」など、中東情勢の影響が収まりつつあるとの声もある。一方で「世の中の全てで値上げが止まらなくなっており、消費者の財布のひもは固い。今年のお中元シーズンもどうなるか心配でならない(その他専門店[酒])」、「気温の影響もあるが、夏商戦の5月以降、高収益の衣料品がカジュアル、ビジネス共に大変苦戦している(百貨店)」、「イベントの集客率や問合せ数が低下している。建物価格の高騰に加え、金利上昇などの影響が大きいとみている(住宅販売会社)」と商品の値上げや金利の上昇が消費マインドに悪影響を与えているとの意見もみられた。

2. 景気の先行き判断

中東情勢の懸念が縮小し、夏季消費に
期待するも、更なる値上げに不安感

図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



先行き判断指数(DI)は前月から5.6ポイント上昇の41.7となった。中東情勢の影響を懸念する声は減り、「夏休みやお盆などの長期休暇時の安近短傾向は今後も継続するとみており、来客数は増加する(その他小売[ショッピングセンター])」、「タクシー利用に対する節約志向は一時的であり、これから夏場を迎えて観光客が増えると、利用客の増加が期待できる(タクシー運転手)」と明るい声がある。一方で「お盆や帰省時期には一時的に販売量が回復するとみているが、物価高が続いているため、9月には再び厳しい足踏み状態に戻る(一般小売店[鮮魚])」、「値上げのペースが早く、対象品目も多い。また、値上げ幅も大きいため多少の影響は出るとみている(スーパー)」、「商品単価が上がっても、来客数や来店頻度が減少しているため、売上自体は変わっていない。そのため、特に人件費などの経費高騰により、経営が困難な状況はこれからも続く(コンビニ)」と更なる値上げの悪影響を懸念する声も目立った。

●6月のアンケート内容

調査期間：2026年6月25～30日
調査対象：合計100名(うち回答者89名)
(内訳) A. 家計動向関連
B. 企業動向関連
C. 雇用関連

●景気判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

1. 景気の現状に対する判断理由(3カ月前と比較して)

A. 家計動向関連

景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
良くなっている 	—	—	—
やや良くなっている 	商店街（代表者）	販売量の動き	・インバウンドの観光需要が非常に旺盛で、売上が大幅に増加している。今月の免税売上の取引件数は前年同月比約4割増しで、売上金額は約57%増加と大きく伸長した。特に米国や台湾からのインバウンドが目立っており、免税客単価も約1.9万円へと上昇している。この好調なインバウンド効果が寄与し、店舗全体の売上も前年同期比で約45%増加と極めて堅調に推移しており、既に前月の月間総売上を上回る勢いである。
	コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・県内で宿泊した旅行者に対して、土産物店や飲食店等で利用できるデジタル地域通貨や紙クーポンでキャッシュバックするという県独自の企画が特需を生み出しており、週末の来客数と客単価が大幅に伸びている。
	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・環境性能割廃止の影響や新型車登場の効果等により、やや上向きである。
	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・企業研修や学会などの団体予約が好調で、前年の稼働率を上回っている。
	タクシー運転手	単価の動き	・5月末のタクシー運賃の改定により運賃が16%上昇し、売上金額は上がるようになった。一方、客は節約してタクシー利用を控えたり、夜の繁華街へ出掛ける回数を減らしたりする傾向がみられる。
	競輪場（職員）	販売量の動き	・一時期は売上が低迷していたが、消費税減税実施等の見通しにより好況感が回復し、それに伴って売上も回復している。
変わらない 	コンビニ（店長）	単価の動き	・本部主導の大型キャンペーンやセールによって、今月は集客に成功している。キャンペーン以外の商品を手に取る客もみられ、売上の全体的な底上げに貢献している。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・節約志向が強く、なかなか売上の向上につながらない。
	家電量販店（店長）	販売量の動き	・省エネ基準改定前の需要の高まりから、前月のエアコン販売数が増加し、その反動で今月は伸び悩んでいる。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車と中古車の販売量がなかなか増えない状況が続いている。購入に対して慎重な客の様子は変わらない。
	乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・物価上昇に伴い、部材費や車両単価も上昇傾向である。数量の伸び悩みに対して、単価の高止まりにより、売上は一定水準を保っている。
	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・6月は県の観光支援策があり、今月に入ってから予約が増え、売上が伸びている。
	観光型旅館（経理）	来客数の動き	・被災した当温泉地での宿泊客数は増えつつあるが、工事関係者数が減っており、全体の増減は変わらない。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門はインバウンドを中心に堅調に推移している。それに伴いレストラン部門も堅調である。宴会部門は苦戦している。
	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に獲得契約数は前年同期並みだが、解約数は引き続き前年を少し上回って推移している。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・売上や来客数の減少傾向はここ半年以上続いており、今月も変わっていない。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月は新規分譲地の販売が開始となり、契約が進んでいる。今後は建築も進み、売上も増えるとみている。
やや悪くなっている 	一般小売店【精肉】（店長）	販売量の動き	・デイリー商品の販売量は横ばいだが、ギフト受注が減っているため、売上が落ちている。
	一般小売店【事務用品】（店長）	販売量の動き	・高額商品の動きが悪い。客は本当に必要な商品だけを購入している。
	一般小売店【鮮魚】（経営全般）	販売量の動き	・6月は売上が落ち込む時期ではあるが、3カ月前より明らかに売れなくなっており、現場の空気が重い。相次ぐ値上げにより、し好性の高い商品への支出が急速に減っており、財布のひもが完全に締まっている状況である。
	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・気温の影響もあるが、夏商戦の5月以降、高収益の衣料品がカジュアル、ビジネス共に大変苦戦している。気温上昇に伴い、夏のカットソーなど半袖物の売れ行きが良くなることを期待したが、販売は少ない。父の日もほとんど動きがない。セールに期待したが、初動は苦戦している。一方、靴やバッグなどの周辺雑貨や化粧品は、衣料品ほど低迷していない。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・特売品の動きが良くなっており、客の節約志向がみられる。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・物価高や石油関連資材の高騰により、企業業績に悪影響が出ており、旅行を中止にする企業が出始めている。



A. 家計動向関連

景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている 	タクシー運転手	来客数の動き	・乗客数が減っている。タクシーはぜいたくという声もあり、利用を控える動きが増えている。
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・イベントの集客率や問合せ数が低下している。建物価格の高騰に加え、金利上昇などの影響が大きいとみている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・中東情勢により、建築資材の不足や価格高騰が住宅価格にも影響を与える。
悪くなっている 	商店街（代表者）	競争相手の様子	・衣料品は例年なら7月から夏のバーゲンセールが始まるが、今年は6月中旬頃から始まっている。中小の小売店なら理解できるが、大型店やブランドショップも夏に入る前にバーゲンセールを行うという異常事態が最近では普通になりつつある。
	一般小売店【書籍】（従業員）	来客数の動き	・今月は今までになく来客数の落ち込みがひどい。各種の値上がりや原材料不足など多くの要因がある。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・化学繊維の原料不足の影響か、商品の在庫量が少なく売上アップにつながらない。
	その他専門店【酒】（経営者）	販売量の動き	・世の中の全てで値上げが止まらなくなっており、消費者の財布のひもは固い。今年のお中元シーズンもどうなるか心配でならない。
	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・国内旅行の来客数が前年と比べて減っている。団体客、グループ客、個人客を問わず同じ傾向である。

B. 企業動向関連

良くなっている	－	－	－
やや良くなっている 	プラスチック製品製造業（広報）	受注量や販売量の動き	・ナフサ不足の最悪な状況は脱したとみている。
	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の調達不安による需要が発生している。
	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・車載関係の受注が順調である。また、産業機器関係の動きも出ており、量産品に関しては良くなってきている。
	輸送業（経理）	取引先の様子	・売上は伸びている。軽油の価格次第では更に伸びる。
変わらない 	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらず推移している。
	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・企業間物流の物量に大きな変化はない。
	司法書士	取引先の様子	・6月末、7月末での会社解散依頼が多数あるが、全て事業承継者不在の黒字解散であり、業績が悪いわけではない。
やや悪くなっている 	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震から2年半、いまだ被災前の売上を下回り続けている。さらに、最近の中東情勢による様々なコストアップが追い打ちとなり、非常に厳しい状況である。
	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の影響により、主原料である石油由来の糸や燃料油などあらゆる原材料価格が高騰し続けており、全てを価格転嫁することは困難である。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響により、燃料を中心とする原材料価格が高騰している。このことを要因とする販売価格への転嫁は、時勢から比較的理解を得られやすいものの、原材料が不足する事態も発生しており、販売できない懸念も増えている。
悪くなっている	－	－	－

C. 雇用関連

良くなっている	－	－	－
やや良くなっている	＊	＊	＊
変わらない 	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・中東情勢等の影響が続いており、3か月前と比較して求人に変化はない。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新規案件が少ない。中小企業における求人の動きに変わりはなく、人が集まらない状況である。求職者には年配者が多く、求人企業とのマッチング成立が難しい。
やや悪くなっている 	人材派遣会社（役員）	採用者数の動き	・3か月前と比べて派遣しているスタッフが数名減っている。
	学校【大学】（就職担当）	周辺企業の様子	・求人依頼に来る企業から、依然として原材料費や燃料費が高騰し、調達が困難な状況が続いていると聞く。
悪くなっている	－	－	－

2. 景気の先行き（2、3カ月後）に対する判断理由

A. 家計動向関連

景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
良くなる 	—	—
やや良くなる 	商店街（代表者）	・国内外で夏季休暇やバカンスのシーズンを迎えるため、インバウンドを中心とした観光客の更なる増加が期待できる。現在、米国や台湾など多様な客による高単価商材の購買が目立っており、円安基調が続いていることも追い風となって、この勢いは夏に向けて一段と加速するとみている。来客数、客単価共に今月を上回る好調な推移を見込んでいる。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・夏休みやお盆などの長期休暇時の安近短傾向は今後も継続するとみており、来客数は増加すると考える。
	観光型旅館（経理）	・徐々に再開する旅館が増えることにより、当温泉地の来客数の増加に期待している。
	タクシー運転手	・タクシー利用に対する節約志向は一時的であり、これから夏場を迎えて観光客が増えたと、利用客の増加が期待できると考える。
	美容室（経営者）	・来月に販売されるカラーの新製品に期待している。
変わらない 	商店街（代表者）	・人出は若干のプラスであるが、商店街周辺にある駐車場の利用状況が前年と比べて落ち込んでいるのが気掛かりである。
	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	・8月のお盆や帰省時期には一時的に販売量が回復するとみているが、物価高が続いているため、9月には再び厳しい足踏み状態に戻ると考える。
	百貨店（販売促進担当）	・株価上昇により、一部の層においてハイブランドや宝飾、時計などの高額品は堅調といえるが、中間層における物価高騰の影響は根強く、慎重な購買行動が継続するとみている。
	コンビニ（店長）	・人気のある玩具やカードなどの関連商品は物価高の影響が少なく、SNS等での情報共有によって瞬く間に完売となる。商機ではあるものの、仕入れられる数は限られるため、その売上にも限界がある。
	衣料品専門店（経営者）	・原材料の動向により製品在庫がコントロールされ、売上もそれに比例するとみている。
	家電量販店（店長）	・物価高による買い控えがみられるため、伸びることはないとみている。
	乗用車販売店（経理）	・環境性能割廃止や新型車登場の効果は一段落するとみている。
	住関連専門店（役員）	・物価高が続いているため耐久財消費は後回しにしようとする姿勢と、値段が更に上がる前に買っておこうという意識が交錯している様子である。全体的には現状に近い状態がしばらく続くともみている。
	住宅販売会社（従業員）	・金利が上昇しており、消費者の動きが鈍くなるとみている。
やや悪くなる 	一般小売店〔精肉〕（店長）	・ギフト商品の数字はこの先しばらく落ちるとみている。素材としての肉単品での販売は調子が良いため、何か新しいことに取り組み、売上を上げていかなければいけない。
	百貨店（販売担当）	・主力の衣料品は低迷が続くとみている。理由としては、まず、ヒット商品がないことが挙げられる。次に、旅行需要における旅費が高額のため、旅費以外にかける購買が減っている点である。そして、衣食住の中で衣料はぜいたく品と認識され、購買が二の次となっている点である。食や住の負担が重くなり、衣料や雑貨などの購買にはより慎重になるとみている。
	スーパー（仕入担当）	・春先に値上げしたものも含め、ナフサ不足に起因する価格改定が7月に大量にある。値上げのペースが早く、対象品目も多い。また、値上げ幅も大きいため多少の影響は出るとみている。
	コンビニ（店舗管理）	・県独自の宿泊キャンペーンは、一旦、来月の中旬までとなっており、特需もなくなるとみている。
	衣料品専門店（経営者）	・地場の中小建築、建設系の優良客層から、仕事がない、若しくは滞っているという話を聞いており、節約する方向になるとみている。
	高級レストラン（スタッフ）	・春頃からは、団体宴席や団体旅行による集客が好調であり、何とか例年に近い数字でとどまっていたが、夏場は団体利用が少ないため、厳しい状況になるとみている。
	都市型ホテル（役員）	・ビジネス利用を中心とした個人利用客への価格転嫁が難しく、利益確保が困難である。
	タクシー運転手	・乗客数が減っているなか、運賃改定で利用料金が上がることにより利用控えが増え、減収になるとみている。
	通信会社（役員）	・中東情勢が収束に向かってはいるものの、引き続き石油関連製品の値上がりやAIデータセンターの需要増加に伴う半導体の逼迫や価格上昇によって、サービス提供に必要な設備や備品の価格上昇や供給不足が懸念される。
	住宅販売会社（営業）	・多くの資材メーカーから更なる値上げ要請が続いており、価格転嫁せざるを得ない状況である。ますます販売しにくい状況になるとみている。



A. 家計動向関連

景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
悪くなる 	商店街（代表者）	・梅雨時から台風と天候不順の影響で来街者数の減少が続くとみている。
	コンビニ（店長）	・現在の販売価格で、コンビニ加盟店の経営は精一杯の状態である。商品単価が上がっても、来客数や来店頻度が減少しているため、売上自体は変わっていない。そのため、特に人件費などの経費高騰により、経営が困難な状況はこれからも続く。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・景気が良くなる兆しは全くない。周りには悪くなるという情報しかない。
	テーマパーク（役員）	・団体客、グループ客、個人客共に予約状況が厳しい状況である。インバウンドはやや良いものの、全体では悪くなるとみている。

B. 企業動向関連

良くなる	＊	＊
やや良くなる 	一般機械器具製造業（経理担当）	・二輪車用部品関係はOEMメーカーの開発遅れや在庫過多による生産調整があったため、想定したほど受注は伸びていない。一方で産業機械用部品関係は、アジアでの堅調な設備投資需要や国内の製缶メーカーなど特定客の増販などにより、堅調に推移している。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・工作機械の受注量が増加傾向にあり、堅調に推移している。
	建設業（経営者）	・公共工事の発注が本格的になるとみている。
	輸送業（管理会計担当）	・企業間物流の物量に大きな変化はないが、運賃改定が進んでいる。
変わらない 	電気機械器具製造業（営業担当）	・受注予定である電気自動車関係の新規製品において開発停滞等の話が出ており、新規の金型や設備の受注について非常に危惧している。そのため、産業機器関係や民生品関係の新規アイテム獲得により挽回を図る必要が出てきている。
	不動産業（経営者）	・個人客からの問合せは少ないが、法人からの問合せが少し出てきているため、少し先には動きが出るとみている。
やや悪くなる 	食品製造業（経営企画）	・中東情勢によるマイナスの影響がまだ続くとみている。
	繊維工業（総括）	・中東情勢について、最終合意までにはまだ紆余曲折があると懸念している。
	プラスチック製品製造業（広報）	・ナフサ不足の影響が7月以降もあるとみている。
	建設業（役員）	・不安定な情勢や資材価格の上昇傾向が続いており、足元では受注量が低迷基調にある。
	金融業（融資担当）	・従前から続く物価高や賃上げに加え、市場金利の上昇による支払利息の負担増加が中小企業の収益をじりじりと圧迫しており、厳しい状況が続いている。
	金融業（融資担当）	・中東情勢の影響により、燃料を中心とした原材料価格が高騰している。価格高騰を要因とする販売価格への転嫁は、時勢から比較的理解を得られやすいものの、原材料が不足する事態も発生しており、販売できない懸念も増えている。
悪くなる 	金属製品製造業（経営者）	・現在の一時的な需要に対する反動があるとみている。
	税理士（所長）	・中東情勢の影響による物資不足と、人手不足がいよいよ影響を及ぼすとみている。ある機械メーカーでは、納品できずに在庫がたまっている。

C. 雇用関連

良くなる	－	－
やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数が増加している。
変わらない	民間職業紹介機関（経営者）	・求人の動きは業界によってばらつきがあるものの、大きな変化はみられない。求職者数も頭打ちの状況であり、このままの状況が続くと考える。
やや悪くなる 	人材派遣会社（役員）	・派遣しているスタッフ数が第1四半期で前年同月比5%ほど減っており、派遣依頼数は横ばいである。また、求職者数が減少している直近の傾向からすると、若干悪くなるとみている。
	職業安定所（職員）	・景気の悪化を理由に求人が出せないと明言する事業所はほとんどないものの、新規求人数の減少傾向が続いている。
	学校〔大学〕（就職担当）	・原油の供給が再開されたとしても、生産や流通が元に戻るにはまだ相当な時間が必要である。1度上げた価格を元に戻すのはかなり難しいとみている。
悪くなる	－	－